

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

【一】 現代文 評論 (50点)

問1 各2点

(ア) 犠牲 (イ) 集積 (ウ) 逃避 (エ) 姿勢 (オ) 医療

問2 ホ (6点)

問3 (8点)

【解答例】

客が、

(A 1点)

スタッフの思いや仕事ぶりを

(B 3点)

想像することのできる、

(C 2点)

顔の見える関係。

(D 2点)

【採点のポイント】

A 「客が」 1点

○ 「来店した人が」

B (i) 「スタッフの」 1点

○ 「店員の」「店側の」

B (ii) 「スタッフの」 思い」 1点

○ 「気持ち」「考え」

B (iii) 「スタッフの」 仕事ぶり」 1点

○ 「働き」「仕事」

C 「想像することのできる」 2点

○ 「イメージできる」「思い浮かべられる」 ※可能 () できる () の意味は含まれていなくても許容。

△ 「感受性を開いてくれる」 1点

D 「顔の見える関係」 2点

○ 「近い関係」

○ 「特定多数の人々との関係」

○ 「特定の人々との関係」

× 「多数の人々との関係」

× 「信頼できる関係」

問4 ハ (6点)

問5 ロ (4点)

問6 (8点)

【解答例】

- 客の一人の時間を (A 2点)
受け止め、 (B 1点)
本人の中に言葉やアイデアが立ちあがるのを (C 3点)
待つ役割。 (D 2点)

【採点のポイント】

A 「客の一人の時間」 2点

△ 「客の時間」 ※ 「一人の」が無い。 1点

△ 「一人の時間」 ※ 「客の」が無い。 1点

B 「受け止め」 1点

C (i) 「本人の中に」言葉やアイデアが」 2点

○ 「言葉が」「アイデアが」 ※どちらか一方でも可

※ 「本人の中に」は明示されていなくても良いが、明らかに「スタッフの中に」の意味になっているものは、全体から4点減。「客の一人の時間を受け止め、自分の中に…立ちあがるのを待つ」のように、「自分」が「客」なのか「スタッフ」なのか判然としない場合、全体から2点減。

C (ii) 「立ちあがる」 1点

○ 「生まれる」

○ 「形になる」

▼Cについて、23 段落冒頭の「モヤモヤした思いや感情が形になる」を使用しても可(3点)。

但し、「モヤモヤした」思いや感情が立ちあがる」は、Cポイント0点。

○ 「言葉(やアイデア)が立ちあがる」 3点

○ 「言葉(やアイデア)が形になる」 3点

× 「思い(や感情)が立ちあがる」 0点

○ 「思い(や感情)が形になる」 3点

D 「待つ(役割)」 2点

問7 イ (8点)

高1レベル記述模試
□二 (小説) 採点基準 (合計 50点)

問一 各2点

- | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|
| 1 | けいべつ | 2 | もんえい | 3 | はんぱく |
| 4 | もうぜん | 5 | おさ | | |

※3は「はんぱく」も可

問二 各3点

x || ホ

y || ニ

z || ハ

※解答通り

問三 6点 (模範解答例)

A ○1点

「一点はいつた歌から

B ○1点

「高得点の歌へ進むことは、

C ○2点

「歌会の批評のやり方が、

D ○2点

「社交性を帯びたものとして感じられたため。

※A・B・C・D・Eに関して部分配点

A 「一点はいつた歌から」(1点)

低得点の歌から批評が始まることの説明。

「点のあまりよくない作品」等も可。

B 「高得点の歌へ進む」(1点)

高得点の歌へと批評が進むことの説明。

「最高点の歌(から先きにやる)」等も可

「最高点を得た作品(から順に批評をする)」等も可。

C 「歌会の批評のやり方が」(2点)

「歌(会)」と「批評」のふたつの語が含まれること。

「批評」のみは、1点減点。

「ここでの批評」は、1点減点。

「見なれぬやりかた」は、1点減点。

D 「社交性を帯びたものとして感じられたため」という説明。(2点)
社交性を帯びたことの説明。

「一種の社交性を帯びたものとして安吉の眼にうつった」等も可。
文末「から・ので・ため・ゆえ」等の係り受けなしは、1点減点。

問四

各3点

I || □

II || ◻

※解答通り

甲 「解答1」

A ○2点

B ○2点

歌の初心者は誰だって模倣からはいっていくものである

「解答2」

A ○2点

B ○2点

模倣する歌とされる歌に本質的共通点があれば模倣も悪くない

A 「歌の初心者」の説明(2点)

「歌の」なしは、1点減点。

B 「模倣からはいっていく」の説明(2点)

「模倣からだんだんはいっていく」等も可。

「模倣も模倣ときり言ってしまえない」等も可。

※ 「解答1」と「解答2」のAB混同記述は不可。

乙

C ○2点

D ○2点

生悟りの歌を模倣することが歌づくりの心がけとしてよくない

C 「生悟りの歌を模倣する」(2点)

「生悟りみたいな歌」等も可。

「出来の悪い歌」等も可。

「あの坊さんの歌」「元興寺の僧(の歌)」のみは×

「模倣」なしは、1点減点

D 「歌づくりの心がけとしてよくない」(2点)

「ああいう歌があった以上はこういう歌はひっこめる」等も可。

※ A・BおよびC・Dに関して部分配点。

問六

5点

※解答通り

問七

6点

ハ

※解答通り

高一

問一

■現代語訳問題

■字数制限無し

■形式上の不備

・文末表現は③のみ詳細参照

・句読点は不問

基準 配点：各3点

①

■模範解答

a

b

目を合わせるな

■採点方法：各要素単独採点

■要素a 目を合わせる：1点

・「視線を合わせる」、「目を見合わせる」、「顔を合わせる」、「顔を見る」なども可

■要素b くな：2点

・「くしてはいけない」など禁止の意であることがわかれば可

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

■模範解答

a
b
c我ながら 本当に 理解できない

■採点方法…各要素単独採点

■要素 a **我ながら…1点**

・「自分自身」、「自分でも」、「私自身」「自分のことではあるが」「身をもって」
なども可

■要素 b **本当に…1点**

・「なるほど」「よく」「実に」など「理解できない」「ことを強調する副詞であれば可

■要素 c **理解できない…1点**

・「わからない」、「納得がいかない」なども可

自分で自分の行動に正当な説明がつかないということ。

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

■模範解答

a

出家もして

■採点方法…各要素単独採点

■要素 a 出家して…3点

・「も」の有無は不問とする。接続助詞「て」で終わっていないものは1点減点。

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問二 (a) □ (b) ハ (c) ニ

(各③点)

問三 □

(⑥点)

問四

■内容説明の問題

■字数制限無し

■形式上の不備

- ・文末表現「〜こと」「〜という判断」など体言にする。不備1点減点
- ・句読点は無問

基準 配点：4点

■模範解答

a b c d

静御前を 都へ帰そうという 判官の 判断

■採点方法：各要素単独採点

■要素a 静御前を：1点

- ・動作の対象が静御前であることがわかれば可。

■要素b 都へ帰す：1点

- ・「連れて行くのをあきらめる」でも可とする。

■要素c：判官の：1点

- ・「義経の」「判官が」「義経が」でも可。

■要素d…判断…1点

・「決めたこと」・「判断したこと」・「決意したこと」・単に「〜こと」なども可

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問五

■ 内容説明の問題

■ 字数制限 四〇字。以上のものは**0点** 以下のものはすべて採点対象とする。

■ 形式上の不備 ・文末表現・句読点是不問

基準 配点：8点

■ 模範解答

a

b

c

敵に捕らわれてひどい目に遭うよりは、義経の手にかかって 死にたいということ。

■ 採点方法：各要素単独採点

■ 要素 a 敵に捕らわれてひどい目に遭うよりは：4点

・(生きて) 敵のためにひどい目に遭うよりは ……**○4点**

・(生きて) 都に帰るよりは ……△2点 危害が加えられていないので**2点減点**

・(生きて) 離れ離れになるよりは ……△2点 危害が加えられていないので**2点減点**

・敵に殺されるよりは ……△3点 殺されるとは明言されていないので**1点減点**

■ 要素 b 義経の手にかかって：1点

・義経によって ……ということがわかれば可

■ 要素 c 死にたいということ：3点

■ その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問六

■和歌の説明の問題

■解答 配点…6点

イ

問七

■内容合致問題

■解答 配点…8点

ホ

問一

- a ゆえん(は) 2点
- b およ(そ) 2点
- c ひそ(かに) 2点
- d つい(に) 2点

※ひらがなでないものは×

※現代かなづかいでないものは×

問二

a 2点

怠け者の農夫の仕事は、

b 4点

耕し方に深い浅いのむらがある

c 不問

から。(6点)

a 「惰農の為」の要素 2点

※ここで主体を間違えているものは全体× 0点

※「為(しわざ)」|| 「仕事」の有無は不問

b 「力を用ふる事専らならず」の要素 2点

「耕すに深淺あり」の要素 2点

c 文末の「くから」「くので」「くため」の有無は不問。

問三 善学稼者 6点

※学稼者は減点1点

※返り点や送り仮名をつけているものは×

問四 ホ 8点

問五

所_下一以耕有_二深浅_一而熟有_中早晚_上也矣。 6点

※完答のみ○

※送り仮名のついているものは×

問六 どうして老農夫の言葉に恥じ入らずにいられようか 6点

※「どうして〜のか？」のように疑問形の訳は×

問七

a 5点

名声が早く世に顕れることを焦らず、

b 5点

仏道の修行に深く打ち込んでいる

c 不問

人物。(10点)

a 「今の吾が徒」の「名の晚きを患ふる」の逆の要素 5点

b 「深く耕す者」の要素 5点

c 文末の「人物」の有無は不問とする